

教育研究業績書

2024年10月22日

所属：看護学科

資格：教授

氏名：早川 りか

研究分野	研究内容のキーワード
在宅看護学	訪問看護の事業所管理・運営 訪問看護師の臨床判断能力 対人援助職支援 在宅ターミナルケア
学位	最終学歴
博士（臨床教育学）	武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科博士後期課程修了

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 看護教育論の授業	2020年10月～現在	大学院修士課程の授業として、看護における人材育成の考え方や看護教育における教育・学習の理論について解説をおこなうとともに、受講生それぞれが現場教育で抱えている悩みに対して、ディスカッションをとおして考えあえるように授業運営を行った。また、看護基礎教育の具体的方法として、学生の臨地実習での実習記録の検討を行った。
2. 在宅看護学実習における学内実習の運営	2020年5月～現在	コロナ禍により、施設での実習が困難となったため、学内での実習を工夫しておこなった。実際の訪問場面にそくした動画事例の活用や、訪問場面のロールプレイ、訪問看護ステーションの実習指導者による講義・ディスカッションを織り交ぜ、学内実習においても施設実習と同様の学修が確保できるように計画・実習運営を行った。
3. ICTを活用した遠隔授業の運営	2020年4月～現在	在宅看護学Ⅱの演習授業において、Google ClassroomやGoogle Meetを使用した授業を行った。授業動画、演習のデモンストレーション動画等の教材作成や課題の提示などにおいて、実際の看護場面を多く取り入れることにより、よりリアルな学びを得られるよう工夫を行った。
4. 広域実践看護学総論の授業	2020年4月～現在	大学院修士課程の授業として、在宅療養者と家族の生活に即した看護実践についておよび国内外における在宅医療・在宅看護の現状と課題について、最新の統計資料を踏まえつつ、現場での実践に携わる院生同士のディスカッションをとおして、在宅看護の現状と課題について考えあうことができるよう授業運営を行った。
5. 大学院修士課程の主旨導	2020年4月～現在	大学院修士課程の大学院生の主旨導として、院生自身の研究関心を丁寧に聴きながら、具体的に研究として調査し、まとめていくにはどのようにすればよいかを共に考え、研究方法、研究計画の作成等、研究全般の指導を行っている。
6. 1年生の初期演習Ⅰ、初期演習Ⅱの授業	2020年4月2021年2月	1年生の担任として、初期演習Ⅰおよび初期演習Ⅱを担当し、大学での学習の進め方や大学生活の送り方について修得できるように授業を行った。また、大学のプログラムを活用しながら大学・学部のポリシーや社会人基礎力の育成について理解し、自己理解を深めるとともに、卒業時の自分について少しずつ考えながら成長できるように授業運営を行った。
7. 広域実践看護学特論Dの授業	2019年9月～現在	大学院修士課程の授業として、在宅療養者と家族への看護実践、多職種連携などのテーマについて、主として先行論文の検討・ディスカッションをとおして、学生同士が自身の研究関心に重ね合わせながら、地域での研究の進め方について、具体的にイメージできるよう授業運営を行った。また、在宅看護における看護過程の展開として、西宮市で実際に使用されているICFのアセスメントシートの検討をとおして、地域での看護過程の展開方法について考えを深めることができるように授業を行った。

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
8. 実習オリエンテーションの運営	2019年9月～現在	在宅看護学実習オリエンテーションにおいて、実習内容や実習施設のイメージがつきやすくなるように、視覚教材を導入しながらパワーポイント資料の作成や実習施設ごとの情報ファイルを作成した。
9. 大学院博士課程の副指導	2019年4月～現在	大学院博士課程の院生の副指導として、ゼミでのディスカッションや個別指導をとおして研究方法の指導や研究計画作成の指導を行った。
10. 大学院修士論文、博士論文の副査	2019年～現在	学位審査対象論文の副査として、提出された論文についての指導および審査に携わった。
11. 新入生に対してのグループワークおよび発表方法の指導	2016年4月～2018年6月	1年生前期の「学びの基盤」の授業において、グループワークでの討議の進め方や話し合ったことをまとめて原稿を作成する方法についての指導を行った。（前任校）
12. 多職種連携についての演習指導	2015年4月～2017年6月	看護学科、理学療法学科、作業療法学科、臨床工学科との合同で編成されたグループで、事例の検討を行った。それぞれの学科の立場から意見交換を行うことで多職種連携を体験的に学ぶことができるようにした。
13. 学部生に対する卒業論文の指導	2014年4月～現在	看護研究の基本的な方法について解説をおこなうとともに、在宅看護学領域における学生個々の問題関心にあわせたテーマの設定や研究計画について学生と一緒に考えた。またデータの収集から論文完成までの一連の過程をとおして、研究の大切さや楽しさを感じることができるよう配慮した。
14. 在宅ターミナルケアについての授業・演習	2014年4月～2018年8月	在宅における緩和ケアや看取りについて、最近の動向を踏まえながら、具体的な援助方法について解説した。この授業では全人的ケアについて、実践事例や体験記、一般書なども活用しながら学生が幅広い視野で人の死について考えを深めることができるよう配慮した。
15. 在宅看護学実習の運営および指導	2000年4月～現在	在宅看護学の臨地実習において、訪問看護師との同行訪問によって得た体験と学内で学んだ知識とを結びつけ統合できるように指導した。また実習に臨むにあたっての事前の学習や準備、また実習後のリフレクションが十分にできるように配慮した。
16. 在宅看護過程の演習指導	2000年4月～現在	在宅療養者の看護過程の展開方法について、脳梗塞後遺症の高齢者、小児、難病、精神疾患の療養者の事例について小グループによる演習形式で学生が主体的に検討できるようにした。
17. 在宅看護に必要な技術についての授業・演習の運営	2000年4月～現在	在宅看護に必要な技術について、演習を中心とした授業を展開した。自宅にあるものを工夫してケアを行う方法や住宅改修の図面作成など、実際に見る、触れる、使ってみるなどの体験学習を多く盛り込むようにした。
18. 在宅看護に関連する法制度や社会資源の理解のための授業運営	2000年4月～現在	少子高齢化における在宅療養推進の背景と在宅看護にかかわる法制度、社会資源および、在宅看護の対象として療養者および家族への支援の方法、訪問看護ステーションを中心に展開される在宅看護活動、訪問看護師の役割について解説した。特に本授業では在宅療養を取り巻く社会の動向や家族への支援について考えを深めることができるよう授業構成を行った。
2 作成した教科書、教材		
1. DVD 訪問看護師と考える看取りのシンポジウム「家での看取りを語ろう」	2021年3月	訪問看護ネットワーク西宮、西宮市の共催で毎年開催されるシンポジウムについて、令和2年度はコロナ禍により会場での開催が困難となったため、市民への啓発活動としてDVDを作成した。作成にあたり企画・運営に携わるとともに、座談会の構成メンバーとして動画に参加した。
2. 在宅看護技術における摘便モデルの作成	2000年4月～現在	在宅看護において、比較的頻度の高い処置である摘便については、適当な教材がないため、ゴム嚢やロール

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
2 作成した教科書、教材		
3. 在宅看護にかかわる法制度に関する資料	2000年4月～現在	芯、小石、粘土などにより疑似肛門を作成し演習に使用した。これにより、排便の手技を効果的に伝えることができた。 既存の教科書等では、在宅看護領域にかかわる保健医療福祉制度が項目ごとの記述・解説であることから、それらを相互に関連して捉えることが難しいため、老人福祉法、高齢者の医療の確保に関する法律、介護保険法、障害者総合支援法を中心に一覧できるように、制定年度や制定の背景とともに年表に近い形式で作成し、学生にとって学習しやすいように努めた。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 教育・学習理論を踏まえたスタッフ研修の方法についての講義	2017年11月9日	大阪府茨木市高槻市を中心とする地域の医療機関の管理職に対して、教育原論や学習理論を紹介しながら、スタッフの教育方法や研修会の企画・運営の方法についての講義・演習を行った。
2. 地域における保健・医療・福祉の連携と協働についての講義	2016年3月14日	茨木市を中心とする地域の病院・施設に勤務する看護職・介護職に従事するスタッフを対象として、病院から在宅看護への移行が促進されている背景や、現在の取り組みについての講義を行った。ここでは特に退院支援の具体的な進め方などを盛り込むようにした。
4 その他		
1. 就職説明会の計画・実施	2021年4月～現在	学部のキャリア委員として、実習施設対象の就職説明会を計画・実施した。実習施設の採用担当者と連携し、学生の就職先としての実習施設の魅力を伝えることができるように運営を行った。
2. 大学キャリア対策委員	2021年4月～現在	キャリア対策委員として、毎月の学生の就職状況の把握、学生の進路相談・指導、をおこなうとともに、就職支援に関する行事の計画・運営を行った。
3. 兵庫県看護教員養成講習会講師	2020年8月	兵庫県の看護師養成講習会において、文献検索および看護研究の授業を担当した。
4. 看護学部キャリア委員としての学部生のキャリアサポート	2020年4月～現在	3年生対象のキャリアガイダンスを8月、12月、2月の計3回計画・実施した。8月は就職活動のスタートアップセミナー、12月は就職活動の方法、2月は履歴書・小論文対策とし、時期に合わせた就職支援を行っている。また、卒業生に対しては、ホームカミングデーを計画し、卒業生の離職防止のための支援や、在学生との交流を行った。
5. カリキュラムの検討	2019年4月～現在	カリキュラム検討担当として、看護教育における新カリキュラム開始にあたり、カリキュラムの検討および新カリキュラム下での授業・実習方法の検討を行った。
6. 高校へ出張授業	2019年～現在	大学の広報活動として、毎年1～2校の高校へ出張し、看護とはというテーマで授業を行い、また、看護の魅力や看護学部の紹介、看護学部での学びについて紹介している。
7. 高大連携授業	2017年7月31日2018年8月2日	高大連携授業において、「看護学入門」、「在宅看護を知ろう」、「おうちでできる看護の工夫」をテーマとして高校生への講義・演習を行った。
8. 学生指導、学年担任、カリキュラム検討	2016年4月～2019年3月	教務委員として、授業カリキュラムの検討および授業運営や担任業務、学生指導全般にかかわった。
9. 国家試験対策	2014年4月～現在	国家試験対策として、在宅看護学領域の範囲について、頻出問題や既出問題の解説を中心としながら、在宅看護学全体としての復習を行うとともに、国家試験出題基準に準拠しながら、押さえておくべきポイントなどについての講義を行った。また、ゼミ生を中心とした学生に対して、個別に学習方法の指導を行うとともに過去問題集を活用した学習会を開催した。
10. 実習の計画・調整	2014年4月～現在	実習要綱共通項目の作成、実習のローテーション表作成、実習施設との調整を行った。
11. 就職指導や就職に関する行事の企画・運営	2014年4月～2019年3月	就職指導の担当委員として、学生の就職指導や相談に

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
		従事。マナー講座、履歴書面接講座、病院説明会などの就職関連の行事の企画運営を行った。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 大阪府介護支援専門員	2000年2月10日	
2. 看護師免許	1987年5月20日	
2 特許等		

3 実務の経験を有する者についての特記事項		

4 その他		
1. 武庫川女子大学まちの保健室	2019年4月～2020年3月	武庫川女子大学看護学部の開催するまちの保健室において、来場者の健康相談に携わった。
2. 認定看護管理者ファーストレベル講習の受講者審査	2018年4月～2019年3月	認定看護管理者教育課程教育運営委員として、講習会の企画・運営や受講予定者の提出書類および小論文による選考を行った。
3. まちの保健室ボランティア	2016年5月	まちの保健室に学生とともに足浴のボランティアとして参加した。
4. 社会貢献活動の計画	2016年4月～2017年3月	大学社会貢献委員として、大学全体の社会貢献の取り組みについての計画や運営にかかわった。
5. 武庫川臨床教育学会機関紙編集	2014年～現在	武庫川臨床教育学会機関紙編集委員として、学会誌の企画として、投稿論文の審査および特集の計画、編集等に携わった。
6. オープンキャンパスの担当	2014年～現在	オープンキャンパスについて、看護学科ブースの企画や運営にかかわった。特に2015年度は入学試験委員として、この行事の全体にかかわる企画を担当した。
7. 対人援助についての研究会開催	2011年4月～2017年3月	武庫川臨床教育学会対人援助職研究部会世話人として、兵庫県西宮地区の対人援助職の研究会を年2～4回開催した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要

1 著書				
1. Narrative Inquiry と日本の臨床教育学—クランディニン講演とシンポジウムの記録—(医療・看護の立場から)	共	2013年3月	都留文科大学「現代の課題に応える臨床教育学の開拓」プロジェクト編	ナラティブ的研究の意義について、子どもへの教育、若者支援、医療・看護の3つの立場から報告を行った。医療看護の立場から、そもそもこの領域が丁寧かつ詳細な症例研究をもとに発展してきたという事実により、その意義と有効性について報告した。福井雅英、横井敏郎、早川りか他 本人担当部分：「医療・看護の立場から」p. 34-37

2 学位論文				
1. (博士論文) 訪問看護師の臨床判断のプロセスに関する研究—訪問看護師の実践と語りから—	単	2014年3月	武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科 博士課程	訪問看護師の臨床判断のプロセスを明らかにするために、訪問看護師の実践場面の参与観察を行い、療養者へのケアやかかわりについての分析をおこなった。まず、訪問看護師が日頃の業務で抱える困難感についての類型化を試みた。その結果、①独居、②介護者の高齢化、③経済問題、④自己決定への支援、⑤暴言・セクシャルハラスメント、⑥利用者あるいは介護者の性格、価値観、⑦医療や制度への不信任感、⑧ターミナル期、⑨住居の不潔さ、異臭、などの問題を抱えた療養者に対して看護師が介入の難しさを感じていることがわかった。その上で、一人で療養者宅へ訪問する訪問看護師の特性を踏まえ、訪問看護師に求められる臨床判断能力についての検討を行った。研究の結果、訪問看護師の臨床判断には、次の6つのことが関与していることが明らかになった。1) 訪問看護師としての役割意識、2) 医療従事者としての倫理観、3) 患者への共感、4) 所属する組織への責任感、5) 国や地域の保健医療福祉施策への役割意識、6) 自己の成長への期待、である。訪問看護師は、この6つのことを考慮しながら、判断を行っていた。
2. (修士論文) 看護教育における実践知	単	2011年3月	武庫川女子大学大学院臨床教育学研	看護学生の技術の習得のプロセスを解明することを目的とし、アンケートと面接調査を実施した。その結果、学生は、最初は客観的な

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2 学位論文				
得プロセスに関する研究			究科 修士課程	指標により決められた手順や方略をそのとおりに遂行することを主とするが、次第に自己の評価基準を獲得し、自らの経験や感覚を頼りに、主観的な行動へと移行していくという、ドレイファスの技能習得の五段階があてはまることが実証できた。また、「客観」から「主観」への移行が円滑に進むためには、正統的周辺参加論で述べられているように、学習者が所属する共同体の人々とのかかわりや、学習者の主観性を認め、支持する人々の支えが不可欠であることが示された。
3 学術論文				
1. 新型コロナウイルス感染症拡大時における特別支援学校の課題—特別支援学校で働く看護師へのアンケート結果から— (査読有)	共	2022年10月	日本看護科学学会誌	全国の特別支援学校 957 校の看護師を対象に新型コロナウイルス感染症拡大時における特別支援学校の課題について質問紙調査を実施した。結果、「児童・生徒は自ら予防行動がとれない」、「感染予防対策に必要な物品や設備の不足」、「正しい感染予防対策がとれているか確信が持てない」、「自分が感染源になるのではないかという不安」、「感染予防対策に伴う看護師の業務量の増加」、「教員との感染予防対策についての認識のずれ」、「看護師のワクチン接種の遅れ」、「保護者との感染予防対策についての認識のずれ」等の課題があがった。長谷川由香、鬼頭泰子、井上寛子、早川りか
2. 先天性心疾患をもつ乳幼児の計画外入院に関する実態調査 (査読有)	共	2022年5月1日	日本小児循環器学会雑誌 vol138-2	乳幼児期の先天性心疾患児の35.4%が計画外入院を要した。そのうち、0歳児は31.7%と有意に多く、染色体異常を合併する患児が多かった。主な原因は、肺炎や気管支炎などの呼吸器合併症、心不全、SpO2低下やチアノーゼ、低酸素血症などを含む呼吸状態の悪化であった。在宅酸素療法は50.3%、在宅人工呼吸療法は7.9%、在宅経管栄養療法は26.0%で使用していた。 先天性心疾患児の計画外入院は、0歳児が最も多く、先天性心疾患による体肺循環の障害に加え、呼吸機能と循環機能の未発達さや脆弱性による影響があった。計画外入院を防ぐためには、病院から在宅と切れ目のない支援、訪問看護などの医療職の支援が必要である。豊島 めぐみ、久山 かおる、新田 紀枝、早川 りか、豊島 美樹、小澤 秀登、江原 英治
3. 訪問看護師による初回訪問時のフェイスシートの注目点とその理由—新人・熟練訪問看護師の比較— (査読有)	共	2022年3月	武庫川女子大学看護学ジャーナル、7, pp.21-30	訪問香越しの新人16名、熟練15名を対象に、初回訪問時のフェイスシートの注目点とその理由を明らかにする目的で面接調査を行った。注目点は記述統計を行い、注目した理由を認知の処置で分類し、 χ^2 検定を行った。注目点は新人・熟練共に「二人暮らし」が最も多かった。検定の結果、新人は〈記載情報に注目〉というボトムアップ処理を、熟練は〈意図して記載情報に注目〉というトップダウン処理を有意にしていた。記載情報に対する新人と熟練の注目点の違いが明らかとなり、スタッフの育成支援の参考にできると考えられた。森下和恵、新田紀枝、早川りか、久山かおる
4. 本学看護学部「まちの保健室」に参加する地域住民の健康状態と健康行動 (査読有)	共	2021年3月	武庫川女子大学看護学ジャーナル、6、pp.79-89	本学看護学部「まちの保健室」に参加する地域住民の健康状態および健康行動を明らかにするため、2019年7月と8月の参加者を対象に無記名自記式質問紙調査を行った。基本属性、「まちの保健室」参加状況と、健康状態や健康行動について、Pearsonの χ^2 検定またはFisherの正確確率検定を用いて分析を行い、年齢2区分別と性別にも同様の分析を行った。参加者の健康状態や健康行動は参加回数や目的等により異なっていた。健康指標の測定を目的に参加した人は健康のために気をつけていることがある割合やがん検診の受診率が低かった。「まちの保健室」は住民の生活の場である地域で実施しており、自ら相談の場や医療機関、健診や検診にアクセスできない人にもアプローチできる場となっている。より多くの人が関心を持てるよう健康指標の測定等を行い、その後の健康相談により自身の健康に目を向けられる機会を作る必要性が示唆された。松井 菜摘、阪上 由美、新田 紀枝、田野 晴子、桧山 美恵子、和泉 京子、實田 穂、徳重 あつ子、宮嶋 正子、久山 かおる、早川りか、谷澤 陽子、阿曾 洋子
5. 大学生への看護基礎教育における在宅緩和ケア授業の学習効	共	2018年1月	ホスピスケアと在宅ケアVol. 25 No. 2 p.122-128	訪問看護師による特別講義を受講した学生に対して、授業の約1年後にアンケート調査を実施し、講義での学びがその後の授業や実習の中で活用できたかについて調査した。その結果、学生が特別講義の

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
<p>果に関する研究（査読有）</p> <p>6. Nursing support to an incurable disease patient and her family with the consideration of their life stage - Based on the support provided to a spinocerebellar degeneration patient and her family during home care : 難病療養者および家族のライフステージを踏まえた支援についての考察 - 脊髄小脳変性症の療養者と家族への支援から - (査読有)</p>	共	2015年8月	Aino journal Vol.13 p.79-81	<p>内容で心に残っていることとして、【患者の側にいることの大切さ】、【家族への支援】、【トータルペイン】、【訪問看護師の役割】、【疼痛緩和の方法】があった。また、実習でターミナル期の患者にかかわる機会が少ないこと等により、学生は実際の場面ではどうしたら良いかわからず、学びを十分には活用できていないということが明らかになった。</p> <p>本人担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能だがデータ収集・分析の大部分を担当した：早川りか、堀智子、森谷和代</p> <p>長期にわたる難病療養者への支援のあり方について考察することを目的として、本人と家族の成長発達、およびライフステージという視点から事例の検討を行った。検討の結果、難病療養者の長期にわたる経過の中で、療養者、家族は、さまざまなライフイベントを経験する中で、介護をおこないつつも、家族としての役割や絆を大切にしながら過ごしていること、そしてそれを支援することが訪問看護師の役割として重要であることが明らかになった。</p> <p>本人担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能データの収集、分析、執筆の大部分について担当した：早川りか、中嶋久子、土谷きく代</p>
<p>7. 訪問看護師の臨床判断のプロセスに関する研究 -訪問看護師の実践と語り (査読無)</p>	単	2014年8月	武庫川女子大学臨床教育学研究科研究誌 第20号 p.1-13	<p>訪問看護師の現場での判断の様相を明らかにすることを目的として、訪問看護師の実践場面の参与観察を行い、療養者へのケアやかわりについての分析を行った。その上で、一人で療養者宅へ訪問する訪問看護師の特性を踏まえ、訪問看護師に求められる臨床判断能力についての検討を行った。研究の結果、訪問看護師の臨床判断には、次の6つのことが関与していることが明らかになった。1) 訪問看護師としての役割意識、2) 医療従事者としての倫理観、3) 患者への共感、4) 所属する組織への責任感、5) 国や地域の保健医療福祉施策への役割意識、6) 自己の成長への期待、である。訪問看護師は、この6つのことを考慮しながら、判断を行っていた。</p>
<p>8. 地域で活動する対人援助職の困難性および専門性に関する検討 -援助職、援助実践グループの活動と取り組みから- (査読無)</p>	単	2014年3月	臨床教育学論集 第7巻 p.30-35	<p>地域で活動する保健・医療・福祉の活動にかかわる対人援助職が職場で抱える困難感や、支援困難事例への対応等で感じている難しさを明らかにすることを目的として、兵庫県西宮市で活動する「対人援助職研究会」の研究会の報告を中心にまとめた。援助職を取り巻く問題としては次の4つに分類されることが明らかになった。①対人援助職を取り巻く環境、②当事者の理解の難しさ、③対人援助職の専門性、④専門職養成の課題</p>
<p>9. Study on the Judgments of Home-Visiting Nurses in Support of the Home-Care Patients with Various Issues : 多様な問題を抱える療養者支援における訪問看護師の判断に関する研究 (査読有)</p>	単	2014年3月	Aino journal Vol.12 p.29-32	<p>支援の難しい事例において訪問看護師がどのようにことに困難感を感じているかを把握するために、支援の難しい3つの事例について、訪問看護師にインタビュー調査を行い、看護師がどのように状況をとらえていたかについて報告した。この調査により、在宅療養者の置かれた困難な現状、および療養者の抱える問題が病気や障害だけでなく家族問題、経済問題、社会問題など多岐にわたり、それらが複合的に関与していることから、訪問看護師が現場で葛藤を感じながら看護を行っている現状が明らかになった。</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
10. 人間発達援助専門職の抱える困難性とケアの倫理性 — 医療・看護の倫理の変遷から考えるケアの倫理 — (査読有)	単	2013年4月	臨床教育学研究 第1巻 p.105-121	訪問看護の実践的ケア場面における対人援助職の困難性について検討することを目的として、医療従事者のもつ倫理観および医療倫理の変遷という観点から文献検討を中心に考察を試みた。その結果、臨床場面における支援の難しい事例へのかかわりでは、援助者は、規則や規範という「正義の倫理」と、相手の状況や事情に心を動かされなにかしきたいという「ケアの倫理」との葛藤をもちながら、より適切性の高いかかわりを模索していることが明らかになった。
11. 臨地実習における看護学生の成長と看護技術の熟達について — ケアへの拒否のある患者を受け持った学生の語りと学びから見えてきたこと — (査読無)	単	2012年8月	臨床人間関係論研究vol.3 p.1-11	臨地実習での学生の成長過程を明らかにすることを目的として、在宅看護学の臨地実習におけるケアに拒否的な患者とのかかわりの中で、相手に合わせたケアの方法を考える学生の成長について分析するとともに、正統的周辺参加論等の学習論を用いて看護師の成長と育成のあり方について考察した。その結果、看護学生の技術の熟達過程として手順を模倣することから次第に、周囲の状況を考慮しながら自分なりの状況の解釈に基づいて手順を応用するようになること、また、患者との関係や医療従事者の一員としての役割意識などが技術の熟達に影響をしていることが明らかとなった。
12. 看護教育と臨床教育学 — マニュアルと臨床の問題 — (査読無)	単	2011年10月	臨床教育学研究 第0巻 p.103-113	医療現場におけるマニュアルの在り方や意義について考察することを目的として、文献を中心に検討した。その結果、想定外の出来事に直面した場合の看護師の臨床判断は、最初はマニュアルに則り行われるが、ベテランになるにつれて自らの経験則に基づきながら、事象を客観ではなく主観的な視点からも捉えることができるようになり、想定外の出来事に直面しても、自らの経験則と倫理観にもとづき判断ができるようになることが明らかになった。
13. 臨床場面における看護技術の熟達についての一考察 (査読無)	単	2010年10月	臨床人間関係論研究vol.2 p.41-51	学生の技術の習得過程を明らかにするために、基礎看護学実習における、看護学生の血圧測定技術の熟達の様相について、ドレイファスの技能習得の5段階をスケールとして分析した。その結果、学生の技術習得過程もドレイファスの技能習得過程で説明しうることが実証された。
14. 教師と子どもたちとのかかわりの中で「受け取る」ことの大切さについて (査読無)	単	2010年10月	臨床人間関係論研究vol.2 p.76-85	教師の言動が、学習者の学習プロセスにどのような影響を与えるのかについて明らかにすることを目的として、小学校での授業見学をもとに、学習者の学習のプロセスについて検討を行い、その中で教師のかかわりが学習者にどのような影響をもつものであるかについて考察した。その結果、教師の語りやデモンストレーションを児童が「善きもの」として受け止め、それを模倣するところから学習が展開することが明らかとなった。
15. 大阪大学学生・院生の学年進行によるライフスタイルの変遷～特に1年生と4年生の比較 (査読有)	共	1999年3月	CAMPUS HEALTH 35巻1号 p.250-254	大学生の健康習慣についての現状調査を目的として、プレスローの7つの健康習慣について大学生にアンケート調査を実施し、各学年や自宅生、下宿生などの集団ごとの傾向について比較検討した。調査の結果、学年が進行するにつれて、飲酒習慣のある学生は増加し、運動習慣が減少していることが明らかになった。また、自宅生と一人暮らしの学生との比較では、朝食、睡眠、飲酒について自宅生の方がより健康に留意した生活をしていることが明らかになった。
16. 大阪大学における結核集団感染の経過とその対策 (査読有)	共	1999年3月	CAMPUS HEALTH 35巻1号 p.400-404	本人担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能だが、データの収集、分析、執筆の大部分を担当した：早川りか、根来佐久子、宮島恭子、守山敏樹、安東明夫、杉田義郎 大学内における肺結核集団発生時の対応策を検討することを目的として、大学内での対応や、地域の保健所との連携など実際の経過にそくして振り返りながら評価および検討した。その結果、結核の発生した研究室と学部、保健センターを中心とした大学内の連携とともに、保健センターが地域の保健所と迅速かつ密に連絡を取り合うことの重要性が確認された。共同研究につき本人担当部分抽出不可能だがデータの収集、分析、執筆の大部分について担当した：安東明夫、早川りか、守山敏樹、杉田義郎
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
1. 日本の臨床教育学とナラティブ的研究 — 医療・看護の立場	単	2012年9月3日	日本臨床教育学会 第2回研究大会シン	医療・看護領域におけるナラティブ的研究の意義について、そもそもこの領域が丁寧かつ詳細な症例研究をもとに発展してきたという事実により、その意義と有効性について報告した。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1. 学会ゲストスピーカー				
からー			ボジウム、都留市	
2. 学会発表				
1. 先天性心疾患児の計画外入院に関する実態調査	共	2021年7月	第57回日本小児循環器学会学術集会、2021.7	先天性心疾患（CHD）児において計画外入院を要した症例数や年齢、その原因など実態を明らかにすることを目的とし、A病院で2015～2019年の間に入院歴のある18歳以下のCHD児を対象とし後方視的に検討した。その結果、入院を必要としたCHD児は2,289例であり、その中で、計画外入院を要した症例は837例36.6%であった。計画外入院を要したCHD児は乳児が多く、主な原因が呼吸器合併症であり、医療的ケアの状況から、CHDに伴う肺血流増加・減少といった肺循環の障害に加え呼吸循環の未発達さや脆弱性による影響が出やすいと考えられた。豊島 めぐみ、久山 かおる、早川りか、豊島 美樹、小澤 秀登、江原 栄治、西垣 恭一
2. 在宅医が捉える在宅終末期高齢者の過剰治療	共	2020年6月	第25回日本在宅ケア学会学術集会	在宅医が過剰治療と捉える在宅終末期高齢者の治療を明らかにすることを目的とし、在宅医に対して質問紙調査を行った。結果、在宅医の7割が在宅終末期高齢者に対する「過剰治療がある」と回答し、約4割が過剰治療は「虐待にあたる」と回答し、家族の要望で行われる終末期高齢者の治療において、「胃ろう・中心静脈栄養」、「透析導入」、「抗がん剤治療など」を虐待にあたるとする在宅医が多かった。畑中文恵、新田紀枝、早川りか、久山かおる
3. 在宅終末期高齢者の過剰治療	共	2019年10月	第50回日本看護学会－看護管理－学術集会	在宅医、訪問看護師が利用者の過剰治療をどのように捉えているのかを明らかにすることを目的とし、兵庫県内の在宅医11名、訪問看護師15名に対して、半構造化インタビューを実施した。その結果、在宅医の捉え方として、《死が不可逆的になっている状況での延命治療》《死が不可逆的になっている状況での営利目的で行われる治療》《死が不可逆的になっている状況での家族の希望で行われる治療》のカテゴリーに分類された。一方、訪問看護師は、《死が不可逆的になっている状況での苦痛を伴う延命治療》《死が不可逆的になっている状況での営利目的で行われる治療》《死が不可逆的になっている状況での家族の希望で行われる治療》に分類された。在宅医・訪問看護師が捉える在宅終末期高齢者の過剰治療として6つのカテゴリーに分類され、死が不可逆的になっている状況での家族の希望で行われる治療が過剰治療と捉えられていた。畑中 文恵、新田紀枝、久山 かおる、早川りか
4. 在宅終末期高齢者への過剰治療に対する訪問看護師の心理的ストレス	共	2019年9月	第50回日本看護学会－在宅看護－学術集会	訪問看護利用者への過剰治療に対する訪問看護師の心理的ストレスを明らかにすることを目的とし、訪問看護師15名に対して、利用者への過剰治療に対する心理的ストレスについて半構造化インタビューを実施した。結果として、利用者への過剰治療に対する訪問看護師の心理的ストレスとして42のコードが抽出され、《終末期の機能低下の状況での在宅医の想定外な指示への苛立ち》《治療継続により予測される本人の苦痛の増強やQOL低下への危惧》《本人の意向よりも家族の意向が優先され治療が行われることへのもやもや感》《診療報酬から利益を得る目的で行われる在宅医の治療方針への不信感》の4つのカテゴリーに分類された。訪問看護師は、利用者が過剰治療を継続することによって、苦痛の増強やQOLの低下を予測して、利用者の終末期を穏やかに過ごせないことに対して、心理的ストレスを感じていると考えられた。畑中 文恵、新田 紀枝、久山かおる、早川りか
5. A特別支援学校の看護師の定着と教員との協働の関係－看護師離職が少ない特別支援学校の事例－	共	2018年12月15日	日本看護科学学会第38回学術集会、伊予市	特別支援学校に勤務する看護師の聴き取りを行い、教師をはじめとする他職種との連携、母親とのかかわり、子どもへのケア等、実際に行っている業務やそこで感じているやりがい、達成感、困難感などについて調査を行った。その中で連携がうまくいっているA特別支援学校の例に焦点をあて、協働関係の構築について考察をおこなった。本人担当部分：共同研究のため、本人担当部分は抽出不可能であるが、看護師のインタビュー結果の分析とコードの抽出を中心に研究に関わった。長谷川由香、井上寛子、早川りか、高間さとみ
6. 訪問看護における移動中の交通事故の現状と課題（第1報）－訪問看護事業所	共	2018年12月9日	日本在宅看護学会第8回学術集会、静岡市	訪問看護事業所のうち無作為に抽出した3000施設へ質問紙を郵送し「移動の環境」、「交通事故の発生状況」、「訪問看護事業所の管理体制」についての調査を行った。962件の回答を得、地域毎に移動の方法や抱えている問題、課題にそれぞれ特徴がみられた。また、

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
への調査からー 7. フレイル予防に取り組みもう！～あなたと私一緒に踊ろう～学生とコラボでつどいばを拠点に世代交流.	共	2017年8月6日	日本地域看護学会第20回学術集会, 別府市	交通事故以外に、移動時間の逼迫によるスピード違反や駐車違反などの問題がストレスになっている実態が明らかになった。早川りか、寺田准子、人見裕江、佐々木純子 高齢者フレイルの予防への取り組みとして、地域の高齢者のつどい場等で、歌や踊りを取り入れながら学生との交流を行うことの意義と効果について、実際の活動を紹介しながら報告した。若者との交流をとおした取り組みは嚆下状態の改善をはじめとして、身体面、精神面において効果がみられることが示唆された。 本人担当部分：共同研究のため、本人担当部分は抽出不可能であるが、取り組み全体をとおして補助的に関わった。人見裕江、柴田美意子、尾関唯未、早川りか他.
8. 看護基礎教育における大学生の在宅緩和ケアに関する意識調査 - 訪問看護師による実践的な授業を通しての一考察 -.	共	2017年6月23日	緩和医療学会 第22回学術集会, 横浜市	訪問看護師による実践的な授業の1年後に学生にアンケートを実施し、在宅緩和ケアの認識及び、授業の内容が実習に活用できたかについて調査した。学生は講義を受け、在宅緩和ケアを難しいと感じながらもがん患者の退院後の生活へのイメージや患者を生活者として見る視点、家族ケアについて実践に活かすことができると認識していた。学生はがん患者の生活や家族ケアについて、本授業を通して意識が高まっていることが明らかになった。 本人担当部分：共同研究のため、本人担当部分は抽出不可能であるが研究全体についての中心的役割担った。森谷和代、早川りか、堀智子.
9.5 An Interview-based Study of Collaboration among Nurses in Special Needs Schools. 特別支援学校における看護師の他職との協働についてのインタビュー調査	共	2017年3月25日	The 3rd International society of Caring and Practice Conference, kurume.	特別支援学校に勤務する看護師の聴き取り調査を行い、教師をはじめとする他職種の連携、母親とのかわり、子どもへのケア等、実際に行っている業務やそこで感じているやりがい、達成感、困難感などについて調査を行った。医療的ケアについての判断やその判断を伝える上での他職種との意思の疎通などについて、看護師が困難感を感じていることが明らかになった。 本人担当部分：共同研究のため、本人担当部分は抽出不可能であるが、看護師のインタビュー結果の分析とコードの抽出を中心に研究に関わった。長谷川由香、高間さとみ、早川りか
10. 大学生への看護基礎教育における在宅緩和ケア授業の学習効果に関する研究	共	2017年2月5日	第24回日本ホスピス在宅ケア研究会全国大会、久留米市	在宅緩和ケアの授業において、臨床現場の訪問看護師を招聘し、事例についての語りを中心とした講義を展開することについての意義を明らかにするために、学生へのアンケート調査を実施し、その結果、講義後1年を経過した後であっても事例については学生に強く印象づいていることが明らかになった。 本人担当部分：共同研究のため、本人担当部分は抽出不可能であるが、データ収集・分析・発表の大部分を担当した：早川りか、堀智子、森谷和代
11. 在宅看護学実習における学びの構造化についての検討	単	2015年11月22日	第5回日本在宅看護学会学術集会、東京都	在宅看護学実習において、期待される学習内容と、実際の実習場面で体験が予想される内容との整合性について検討を行うことを目的として、実習目標ごとの学習内容の図式化を試みた。このことにより、実習指導の場面で系統立てた指導が可能となることが期待される。
12. 支援の難しい事例における訪問看護師の困難感に関する調査 - 訪問看護師の語りから -	単	2015年10月3日	第46回日本看護学会学術集会：在宅看護、名古屋市	訪問看護における支援困難事例への支援について、看護師へのインタビュー調査の結果をもとに、看護師の抱える困難感についての類型化を試みた。その結果、①独居、②介護者の高齢化、③経済問題、④自己決定への支援、⑤暴言・セクシャルハラスメント、⑥利用者あるいは介護者の性格、価値観、⑦医療や制度への不信感、⑧ターミナル期、⑨住居の不潔さ、異臭、などの問題を抱えた療養者に対して看護師が介入の難しさを感じていることが示唆された。
13. 地域で活動する対人援助職の困難性および専門性に関する検討	共	2015年2月22日	武庫川臨床教育学会冬季集会、西宮市	地域で活動する保健・医療・福祉の活動にかかわる対人援助職が職場で抱える困難感について、職場の環境および、特に非常勤職員への依存による業務調整の難しさや常勤職員の負担感などを中心に検討した。その結果、①専門職と非専門職の立場の違い、②専門職の業務範囲、③地域間や多職種間での連携、④専門職の社会的・経済的評価、という4つの点を踏まえた上での業務調整や役割分担が必要であることが示唆された。 本人担当部分：共同研究のため、本人担当部分は抽出不可能である

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
14. 長期にわたる難病療養者および家族への支援に関する研究 (第一報) 一脊髄小脳変性症の療養者と家族のライフステージに合わせた支援について一	共	2013年11月16日	第44回日本看護学会学術集会：地域看護、金沢市	が、共同研究につき本人担当部分抽出不可能だがデータの収集、分析、発表の大部分について担当した：早川りか、影浦紀子、中村又一、石井邦也 60歳代で発症した神経難病療養者および家族と約10年にわたる訪問看護師とのかかわりを、ライフステージという視点から考察し、それぞれの段階にあわせた支援と計画調整のあり方について報告した。この研究より療養者本人の生活だけでなく、家族の就職、結婚、子育て、進学などそれぞれのライフステージを踏まえたかかわりが看護師には求められることが示唆された。本人担当部分：共同研究のため、本人担当部分は抽出不可能だが、共同研究につき本人担当部分抽出不可能だが、家族史の年表作成と分析を主として担当した：早川りか、中嶋久子、土谷きく代
15. 長期にわたる難病療養者および家族への支援に関する研究 (第二報) 一難病療養者の医療機器導入をめぐる心理面での支援一	共	2013年11月16日	第44回日本看護学会学術集会：地域看護、金沢市	難病療養者について、病状の進行にあわせた、介入方法及び医療機器の導入について、主として家族の心理的支援に焦点をあて考察した。この研究により、病状の進行に合わせた社会資源や福祉用具の導入、医療機器の導入については、十分なインフォームドコンセントと本人・家族の心理的動揺に配慮したかかわりが需要であることが明らかになった。本人担当部分：共同研究のため、本人担当部分は抽出不可能だが、共同研究につき本人担当部分抽出不可能だが、家族の語りのまとめを主として担当した：中嶋久子、早川りか、土谷きく代
16. 地域におけるケアの現状と課題一訪問看護の立場から見えてくる地域の療養者の現状と課題一	単	2013年9月29日	日本臨床教育学会第3回研究大会、西宮市	訪問看護における支援困難事例について、訪問看護ステーションにおけるフィールド調査にもとづき、貧困問題を抱えた療養者、家族問題を抱えた療養者、居宅がゴミ屋敷となっている療養者の3つの事例紹介をもとに、訪問看護での支援の方法や、他職種との連携について報告した。これらの事例より、訪問看護と地域の福祉システムとの連携が重要であることが示唆された。
17. 看護学生の臨地実習における血圧測定技術の熟達過程に関する研究	単	2012年9月5日	第43回日本看護学会学術集会、盛岡市	基礎看護学実習において、看護学生が回を重ねるごとに受け持ち患者の血圧測定技術が上達していく様相について、学生への聴き取り調査をもとに検討し、学生の教育・育成方法のあり方について考察した。聴き取りの結果、学生の血圧測定の熟達には、ドレイファスの技能習得の5段階に沿って、最初はマニュアル依存の状態から次第に自分の感覚や経験を頼りに自分なりの方法で実施できるようになることが示唆された。
18. 訪問看護の立場から見えてくる地域の療養者の現状と課題	単	2012年7月30日	武庫川臨床教育学会第7回研究大会、西宮市	訪問看護における支援困難事例について、筆者が訪問看護師としてかかわった、独居で暴力のある認知症高齢者とかかわりおよび多系統委縮症の療養者の意思決定への支援についての事例をもとに、訪問看護師が不安感や困難感を感じている現状があることについて報告した。
3. 総説				
1. (書評) 人と人のかかわりの中に生きるといふこと～ミルトン・メイヤロフ著 (田村真・向野宣之訳) 「ケアの本質 一生きることの意味」～	単	2018年3月31日	臨床教育学研究 vol.1.6 p.113-116	「ケア」という言葉は、世話、介護、保護という意味の他にも、管理、注意、心配、気苦労、気がかり、不安などの意味をもっている。原著は「On Caring」であるが邦訳版では、「ケアの本質 一生きることの意味」になっており、ケアとは人と人のかかわりの中で生きていくという人の存在そのもの、そして人が生きていくということそのものなのであるというメイヤロフの深い洞察が述べられている。
2. 循環器健診結果報告	共	1996年2月1日	大阪大学保健センター年報vol.14 p.65-74	平成7年度に新入生を対象に実施した血圧検査、心電図検査の結果について、結果データの分布および異常所見率およびその後のフォロー等について男女別にまとめ分析を行った。血圧検査では、境界域・高血圧域の学生は4.9%であった。心電図検査においては、有所見率は17.5%で、左室肥大が疑われるものが最も多かった。これらの学生に対しては、所見に応じて医療機関の受診または経過観察とした。 本人担当部分：共同研究のため、本人担当部分は抽出不可能だが、共同研究につき本人担当部分抽出不可能だがデータの整理及び集計において中心的役割として担当した：早川りか、井上保
3. 大阪大学学生におけ	共	1992年2月1	大阪大学保健セン	昭和62年から平成3年までの5年間の新入生を対象に実施した病歴調

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3. 総説				
るアレルギー疾患の罹患状況について		日	タ一年報vol.11 p.130-139	査において、花粉症、アトピー性皮膚炎等のアレルギー疾患の罹患率、発症年齢および経過について調査をした。その結果、アレルギー疾患に罹患している学生は年度の経過とともに増加しており、疾患別ではアレルギー疾患が最も多かった。また、発症年齢は10～14歳に発症したものが一番多いことが明らかとなった、 本人担当部分：共同研究のため、本人担当部分は抽出不可能であるが、共同研究につき本人担当部分抽出不可能だがデータの整理、集計において中心的役割として担当した：早川りか、秋山都子、澄川一英
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. こどもの貧困と地域ケアを考える	共	2017年7月30日	武庫川臨床教育学会第11回研究大会、西宮市	子どもの貧困問題を中心として、地域における貧困や虐待などの問題、多国籍児童、無国籍児童の問題、そして、子どもだけでなく親が抱えている問題について、地域の中でどのようなケアが求められているかを参加者とともに考え合った。
2. 子どもの貧困と支援～釜ヶ崎こどもの里の取り組みから～		2017年3月18日	武庫川臨床教育学会援助職・援助実践研究会、西宮市	大阪市西成区の釜ヶ崎で、子ども支援の活動を展開しているNP0法人「こどもの里」の活動を紹介し、そこに集う子どもたちと親の抱える問題について討論をした。荘保共子（講演）、石井邦也、早川りか（ファシリテーターをつとめた）
3. 日本臨床教育学会・武庫川臨床教育学会援助職・援助実践の活動		2016年7月31日	武庫川臨床教育学会第10回研究大会、西宮市	2011年から6年間にわたり継続している、対人援助職・援助実践研究会の活動の経過について代表として報告するとともに、現在、地域で活動する援助職の抱える困難感について問題提起を行い、地域における援助のあり方や、援助職をどのように支えていくかについて、参加者とともに考え合った。
4. 訪問看護の現状と課題ー訪問看護師たちの語りからー	単	2014年7月26日	平成24年度 武庫川女子大学教育研究所 臨床教育懇談会、西宮市	訪問看護における支援困難事例について、訪問看護師から聞き取った内容をもとに紹介し、地域における支援の難しさについて問題提起した。
6. 研究費の取得状況				
1. 特別支援学校で働く看護師がいきいきと働き続けられるための支援		2018年4月1日～現在	科学研究費（基盤研究C） 研究分担者 4,030千円 （直接経費3,100千円、間接経費930千円）	特別支援学校で働く看護師が認識している協働を推進する要因を明らかにする。これまでの研究では、看護師の協働を推進する要因として、【同職種間の良好な関係性】、【話しやすく実施しやすい関係】、【保護者の納得を重視する姿勢】、【教師の領域や役割を尊重】、【ケアの方向性の統一】、【状況に応じたケアの提案】、【その子の目標を踏まえたケア】、【その子の普段の身体状況の把握】、【経験に基づく技術と判断】、【学内の支援体制】、【自治体の支援体制】の11の категорияが抽出されたが、このことを踏まえた上で、特別支援学校の看護師と他職種との協働尺度を開発する予定である。
2. 訪問看護における移動中の交通事故の現状と課題に関する研究		2017年4月1日～現在	科学研究費（基盤研究C） 研究代表者 4,550千円 （直接経費3,500千円、間接経費1,050千円）	訪問看護における交通事故は、訪問看護におけるインシデント・アクシデント全体の20%程度を占めており、看護師のストレスのひとつとなっている。交通事故の問題は、看護師の安全確保および訪問看護事業所を運営する上で重要な課題であると考えられるため、本研究では、訪問看護特有の交通事故の現状調査を行い事故の要因および事故防止策について考察する予定である。
学会及び社会における活動等				
年月日		事項		
1. 2023年11月～現在		兵庫県看護協会主任者研修講師		
2. 2023年10月～現在		日本看護科学学会和文誌査読委員		
3. 2023年4月1日～現在		西宮市介護認定審査会委員		
4. 2023年4月1日2024年3月31日		日本看護協会代議員		
5. 2021年3月14日		日本臨床教育学会第10回研究集会 実践事例発表会座長		
6. 2020年8月～2020年9月		兵庫県看護協会教員講習会講師		
7. 2018年4月～2019年3月		認定看護管理者教育課程 教育運営委員		
8. 2017年～2018年		認定看護管理者ファーストレベル講師		
9. 2014年9月～現在		武庫川臨床教育学会 機関誌編集委員		

学会及び社会における活動等

年月日	事項
6. 研究費の取得状況	
10. 2014年～現在	訪問看護ネットワーク西宮 看取りのシンポジウム運営協力
11. 2013年1月～2014年12月	日本臨床教育学会 第4回研究大会実行委員
12. 2012年～2015年	日本臨床教育学会・武庫川臨床教育学会 対人援助職・援助実践研究会
13. 2011年3月～2012年8月	日本臨床教育学会 事務局幹事